



米国穀物レポート コーン・大豆

2016年5月11日

TOCOM認定商品アナリスト(石油、オプション)

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

5月発表USDA需給報告

概要と分析

出所: 米国農務省



アナリスト証明

本レポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本レポートに示した意見は私の見方を正確に反映しています。本レポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性、信頼性に関する責任を負いません。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っていますのでご留意下さい。執筆者の報酬は、このレポートの推奨や見方によって、現在、過去、未来にわたって一切影響を受けません。また当社、岡安企業グループが行ったいかなる投資案件とも本レポートとは関係ありません。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。

とうもろこし (Corn)

5/10USDA発表

2015／16年度米国コーン ()内前月

作付面積	:	8799.9万エーカー	(8799.9万エーカー)
収穫面積	:	8074.9万エーカー	(8074.9万エーカー)
単 収	:	168.4Bu	(168.4Bu)
期首在庫	:	17億3100万Bu	(17億3100万Bu)
生 産	:	136億0100万Bu	(136億0100万Bu)
輸 入	:	5500万Bu	(5000万Bu)
供給合計	:	153億8700万Bu	(153億8200万B)
飼料、その他	:	52億5000万Bu	(53億0000万万Bu)
食品・種・工業用	:	66億1000万Bu	(66億2100万Bu)
内エタノール	:	52億5000万Bu	(52億2500万Bu)
輸 出	:	17億2500万Bu	(16億5000万Bu)
消費合計	:	135億8500万Bu	(135億2100万Bu)
期末在庫	:	18億0300万Bu	(18億6200万Bu)
在庫／消費率	:	13.3%	(13.8%)

5/10 USDA発表

2016／17年度米国コーン ()内はアウトルックフォーラム見通し

作付面積	:	9360万エーカー
収穫面積	:	8590万エーカー
単 収	:	168.0Bu (アウトルック 168Bu)
期首在庫	:	18億0300万Bu
生 産	:	144億3000万Bu (アウトルック138億2500万Bu)
輸 入	:	4000万Bu
供給合計	:	162億7300万Bu
飼料、その他	:	55億5000万Bu
食品・種・工業用	:	66億7000万Bu
内エタノール	:	53億0000万Bu
輸 出	:	19億0000万Bu
消費合計	:	141億2000万Bu
期末在庫	:	21億5300万Bu (アウトルック 19億7700万Bu)
在庫／消費率	:	15.2%

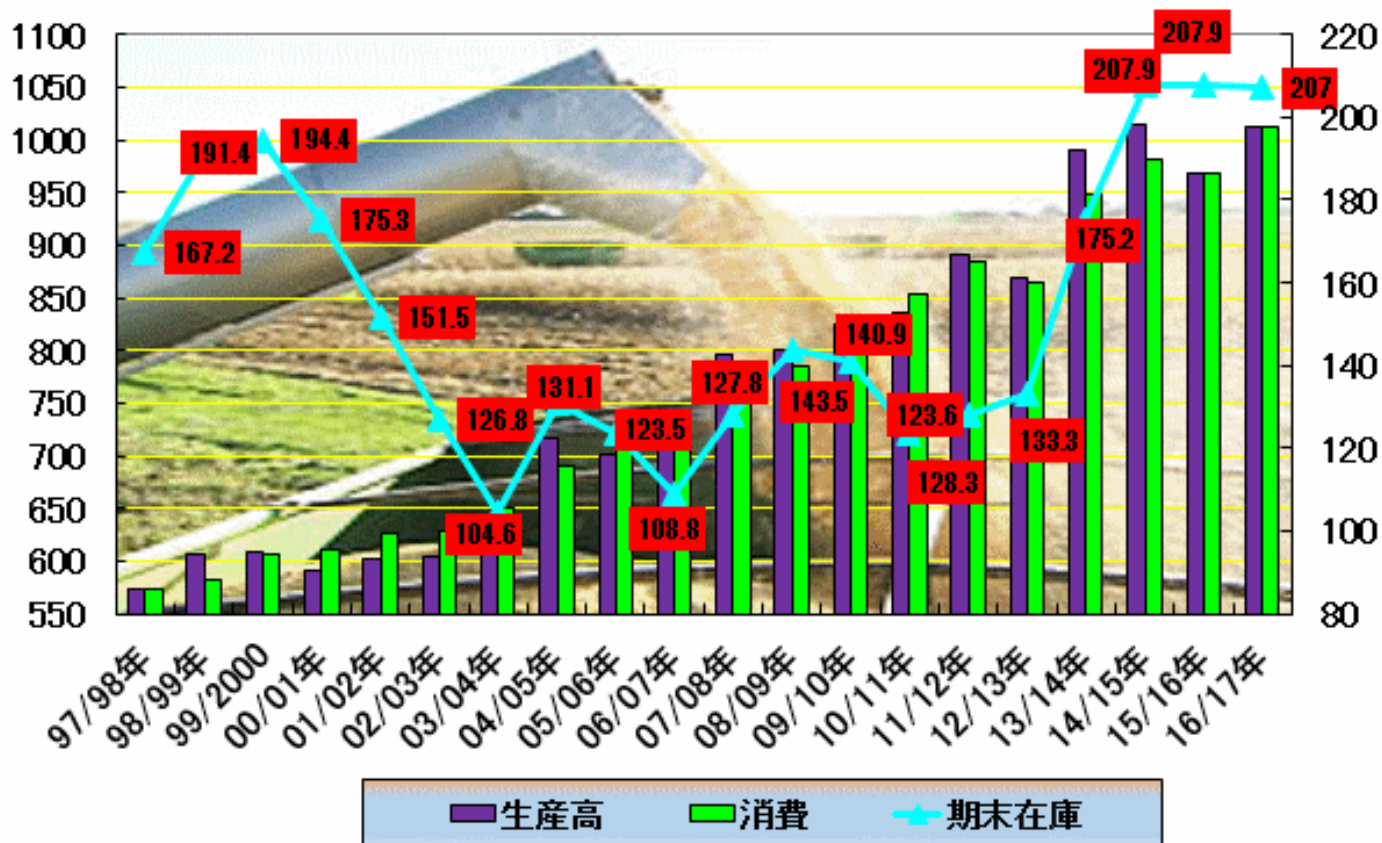
新穀米国コーン期末在庫は20億Bu超え

- 旧穀は輸出が7500万Bu引き上げられ、期末在庫は5900万Bu引き下げられました。新穀は生産高が前年から8億2900万Bu増加の144億3000万Buとし、イールドはアウトルック見通しの168Buをそのまま使用。新穀2016/17年はエタノール需要を前年5000万Bu、輸出を1.75億Buそれぞれ引き上げて、2016/17年期末在庫は21億5300万Buと12年ぶりの高水準となりました。ロイター予想平均22.94億Buを下回りました。

2016/17年世界期末在庫は、2億0704万トン、ロイター予想平均2億1156万トンを下回る。

世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



旧穀2015/16年南米生産高は下方修正

南米コーン生産高推移

単位:万トン Date:USDA



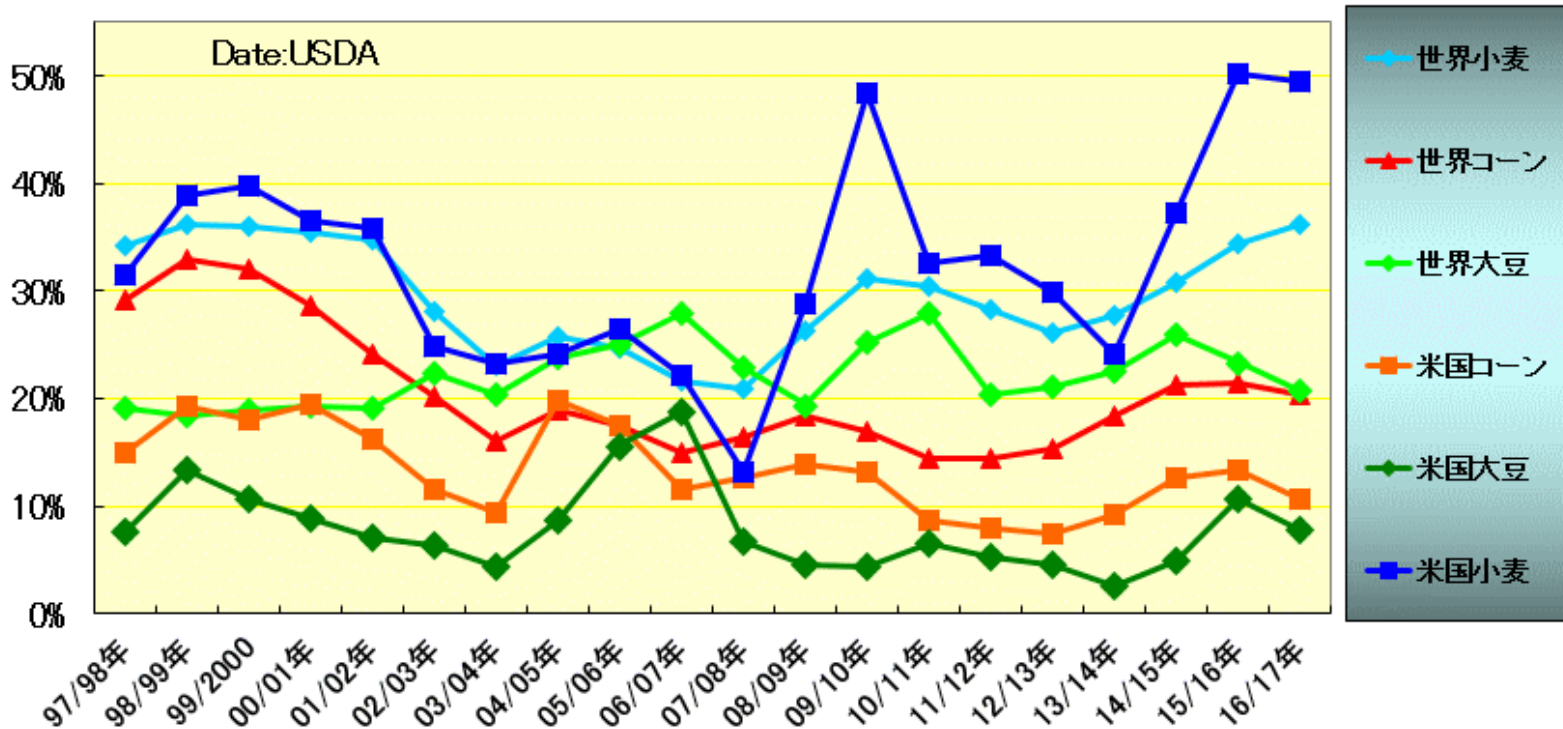
世界コーン需給

- 2015/16年度世界需給は、世界コーン生産高が9.6885億トンと-328万トンの下方修正となりました。ブラジル生産高は-300万トン(8400→8100万トン)、アルゼンチン生産高は、-100万トン(2800→2700万トン)と引き下げられました。2015/16年世界コーン期末在庫は、2.0787億トンとしました。新穀の2016/17年世界コーン期末在庫は2.0704億トンと前年並みとなりましたが、ロイター予想平均の2.1156億トンを下回りました。新穀生産高は、ブラジル8200万トン(前年8100万)、アルゼンチン3400万トン(同2700万)、中国2億1800万トン(同2億2458万)としています。

穀物在庫率推移

米國小麦在庫率は、供給過剰で旧穀在庫率は50.3%、新穀49.5%

穀物在庫率推移

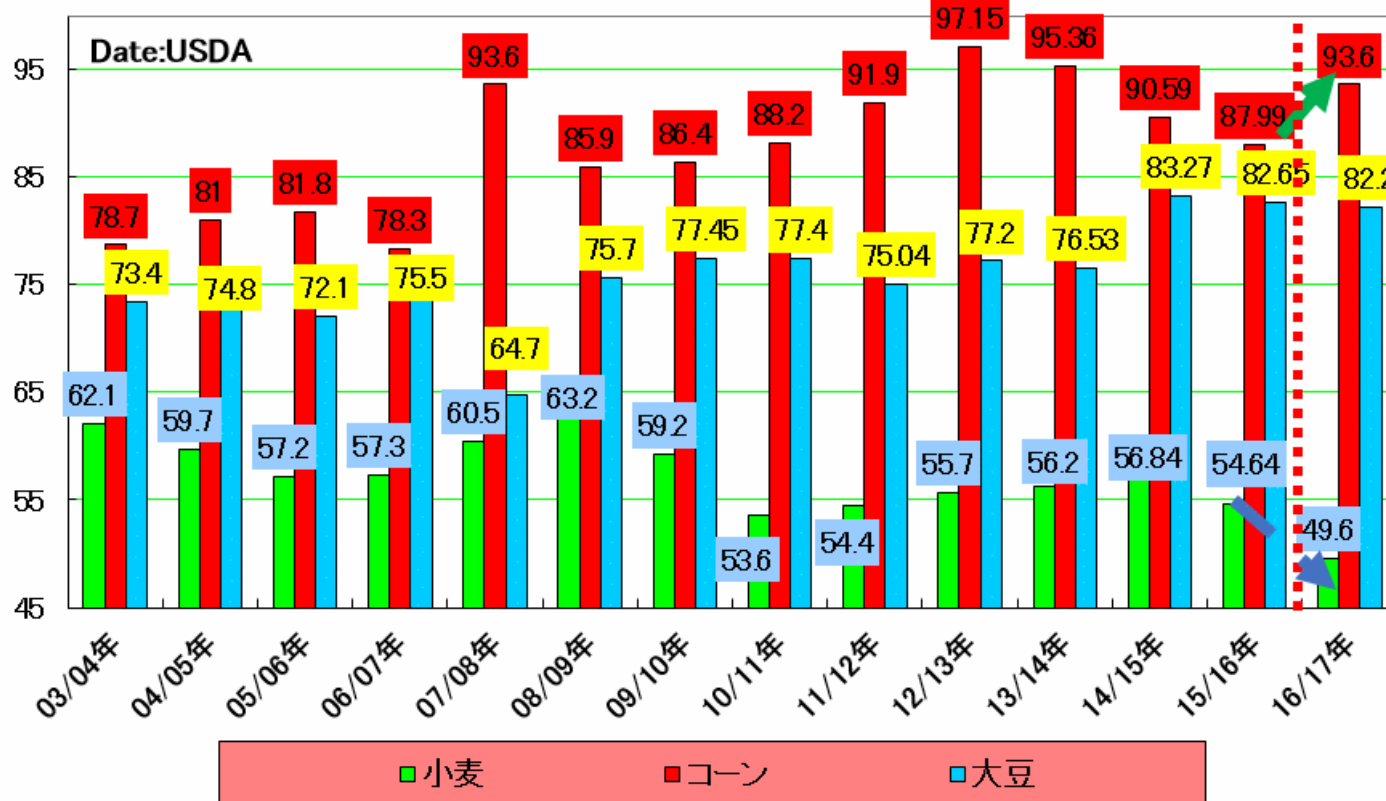


今年度の作付意向面積、小麦大幅減、コーンは前年比+560万の大幅増

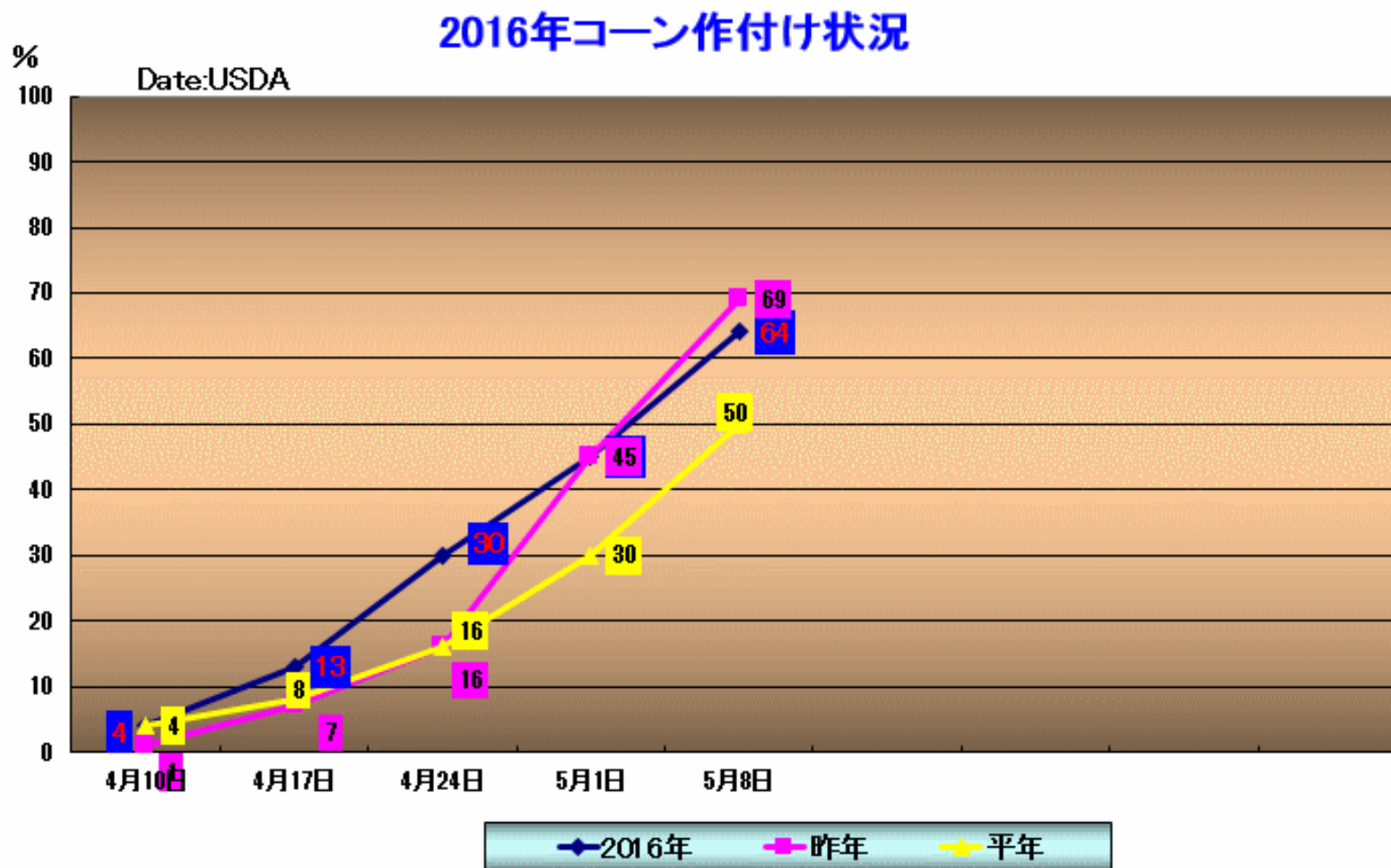
米国穀物作付け面積推移

USDA20160331
作付意向面積報告

100万エーカー



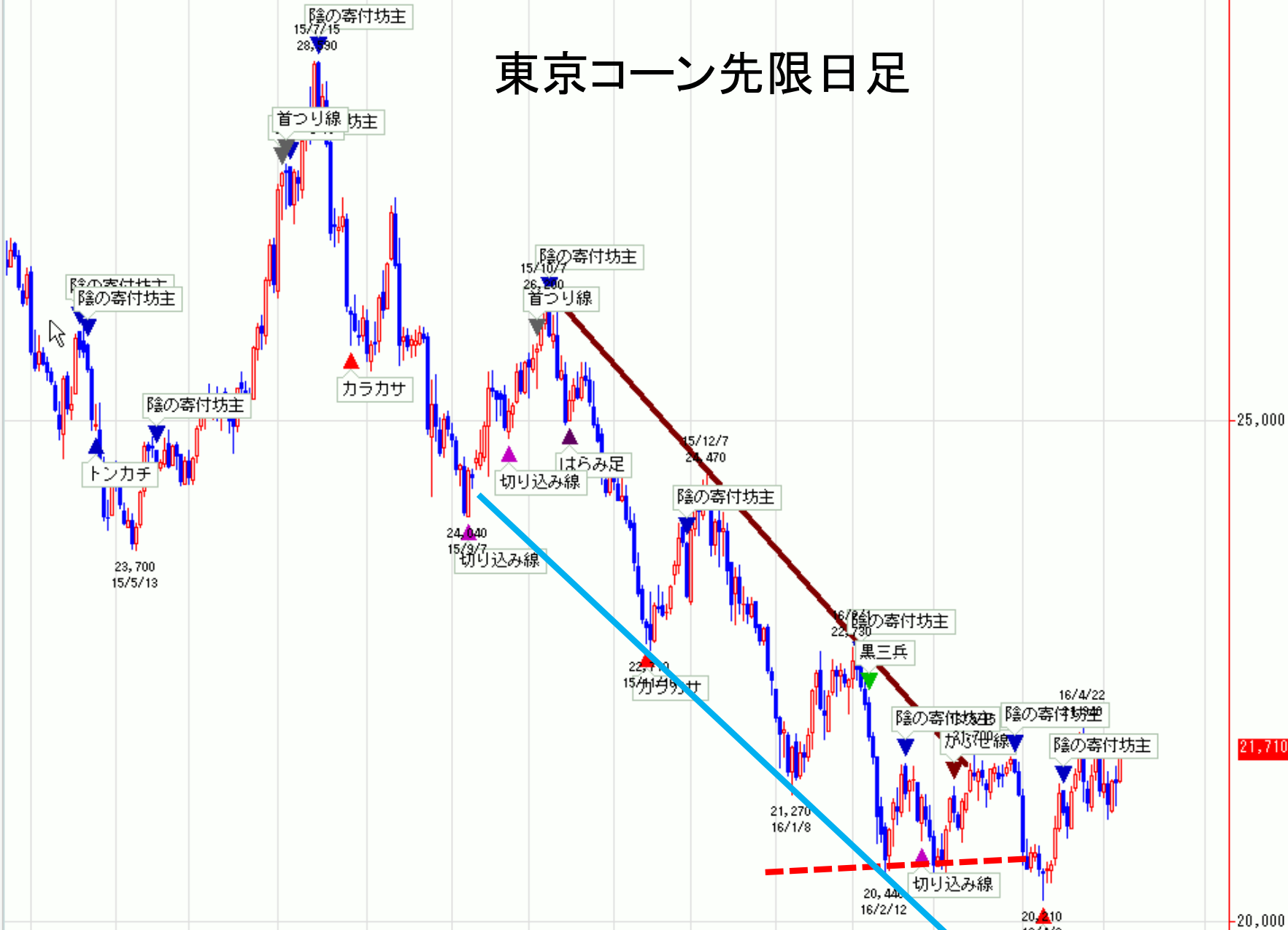
作付進捗は順調、平年を14%上回る



結論

- 米国産期末在庫旧穀は予想通り下方修正、2016/17年期末在庫は、作付大幅増で12年ぶりの高水準となる21.53億Buとしましたが、ロイター予想平均の22.94億Buを下回りました。
- 2016/17年コーンの作付面積は前年比560万エーカー増の9360万エーカーと米國小麦の在庫率が50%に達し、だぶついてる小麦からコーンへのシフトが加速する見通しとなっています。イールドはアウトルック見通しの168Buの想定としていますが、現状の作付、発芽進捗は平年を上回り、順調にきていますので、この先、イールドの引き上げは十分ありそうです。2016/17年は供給過剰感がかなり高まるのではないのでしょうか。2016/17年コーン期末在庫も25億Bu近くまで増加するものと思われます。
- 東京コーン先限も4/8安値20210円をつけてから、下げ渋り21000円台のもみ合いとなっていますが、現在、作付も発芽も順調で豊作観測が高まってくれば、また売り直されるでしょう。

東京コーン先限日足



大豆 (SoyBean)



5/10発表USDA大豆需給報告

2015/16年度米国産大豆 ()内前年

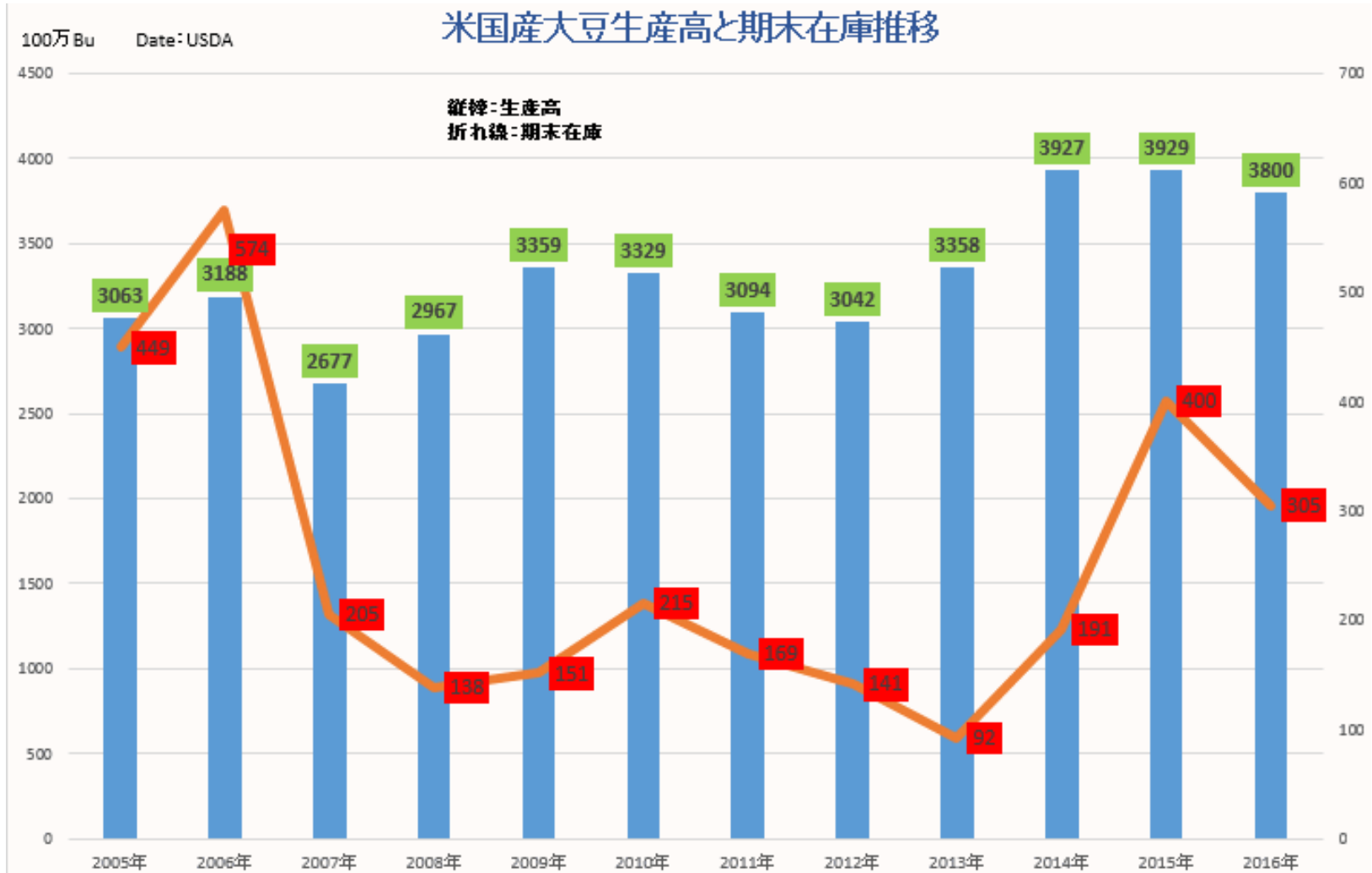
作付面積:	8265万エーカー	(8265万エーカー)
収穫面積:	8181万エーカー	(8185万エーカー)
単収	: 48.0Bu	(48.0Bu)
期初在庫:	1億9100万Bu	(1億9100万Bu)
生産	:39億2900万Bu	(39億3000万Bu)
輸入	: 3000万Bu	(3000万Bu)
供給合計:	41億5000万Bu	(41億5000万Bu)
圧砕	:18億8000万Bu	(18億7000万Bu)
輸出	:17億4000万Bu	(17億0500万Bu)
種子その他:	1億2900万Bu	(1億2900万Bu)
消費合計:	37億5000万Bu	(37億0500万Bu)
期末在庫:	4億0000万Bu	(4億4500万Bu)
在庫率	: 10.6%	(12.0%)

5/10発表USDA大豆需給報告

2016/17年度米国産大豆 ()内アウトルックフォーラム見通し

- 作付面積: 8220万エーカー
- 収穫面積: 8140万エーカー
- 単収 : 46.7Bu
- 期初在庫: 4億0000万Bu
- 生産 : 38億0000万Bu (アウトルック38億1000万Bu)
- 輸入 : 3000万Bu
- 供給合計: 42億3000万Bu
- 圧砕 : 19億1500万Bu
- 輸出 : 18億8500万Bu
- 種子その他: 1億2500万Bu
- 消費合計: 39億2500万Bu
- 期末在庫: 3億0500万Bu (アウトルック4億4000万Bu)
- 在庫率 : 7.7%

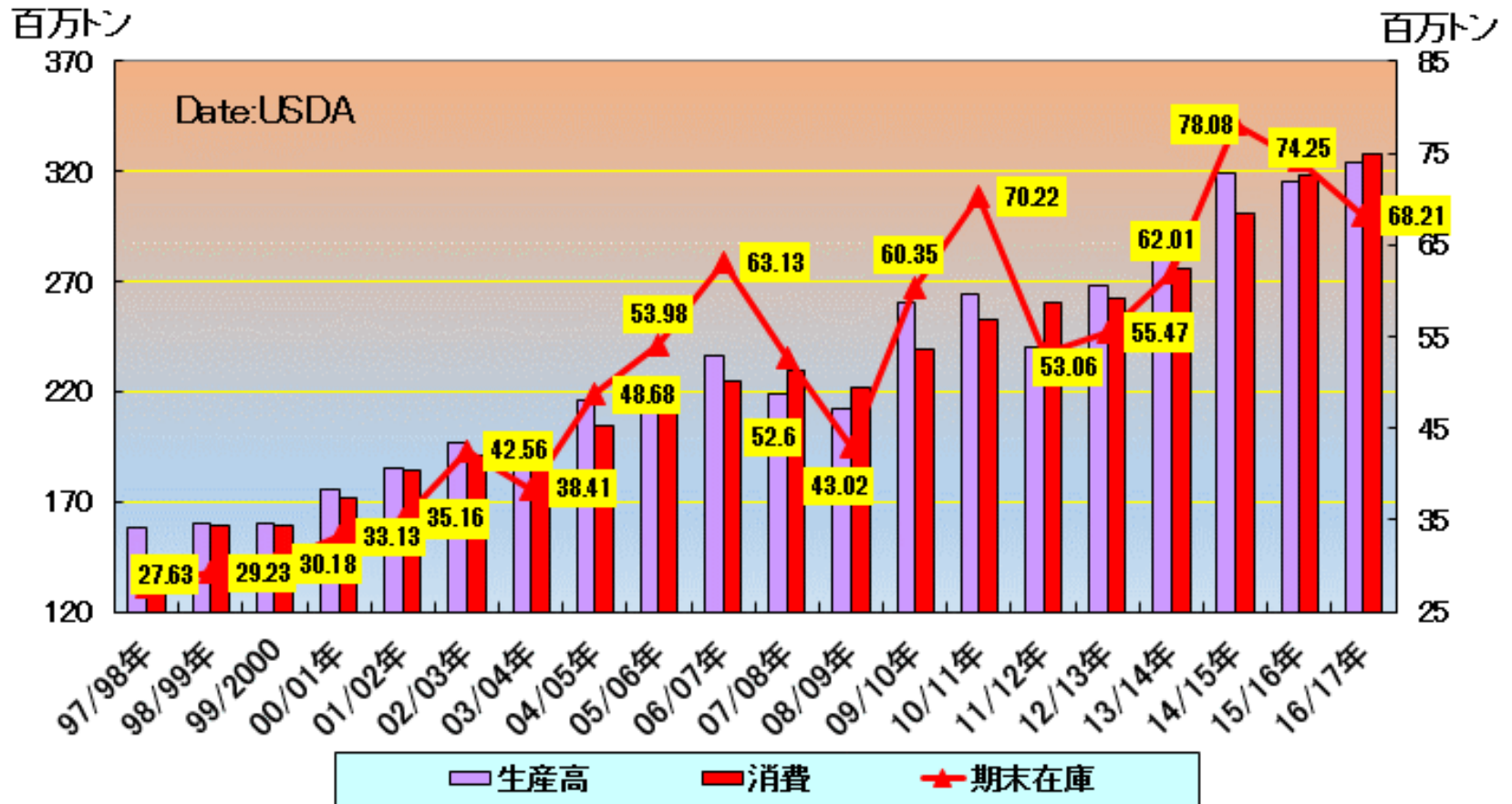
2015/16年米国期末在庫は、4億Buと4500万Buの下方修正。2016/17年
 期末在庫は3億500万Buとロイター予想平均4.05億Buを1億下回る。



世界大豆需給推移

2015/16年世界期末在庫7425万トンと、前月から477万トンの大幅下方修正

世界大豆需給



世界大豆需給

- 2015/16年世界大豆生産高は3億1585万トンと-435万トンの下方修正となりました。ブラジル生産高を-100万トン(1億→9900万トン)、アルゼンチン生産高を-250万トン(5900→5650万トン)、インド生産高を-12万トン(750→738万トン)引き下げました。旧穀の2015/16年世界大豆期末在庫を7425万トンと前月から477万トンの大幅下方修正となりました。
- 新穀の2016/17年世界期末在庫は、6821万トンとし、ロイター予想平均7323万トンを下回り強い数字となりました。需給が前年から約600万トン、2年前から約1000万トンほど引き締まる見通しとしています。

結論

- 旧穀米国産は輸出需要が前月に続いて3500万Bu上方修正、期末在庫が4億Buに4500万Bu下方修正され、ロイター予想平均4.26億Buをやや下回り強材料。新穀期末在庫も3.05億Buとロイター予想4.05億Buを大きく下回り強材料。世界需給は全般大きく引き下げとなり強材料。
- コーンに比べると世界米国とも需給はタイト化する見通しとなっている。コーンの作付が順調なことも大豆へのシフトはなさそうだ。
- 東京一般大豆先限も上値抵抗の46000円を買い切りレンジ切り上げ、先高期待感で週明け「抱きの一本立ち」(酒田五法の買線)が出現、買い気が強まっており、投機人気が高まりそうだ。

商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員
経済産業省 平成22・12・22商第6号
農林水産省指令22総合第1351号

・お客様相談窓口

大阪本社管理部

TEL:0120-346-492

東京統括店管理部

TEL:0120-182-461

・商品先物取引苦情相談センター

日本商品先物取引協会(東京)

TEL:03-3664-6243

- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高190,000円、最低9,600円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約10倍から約45倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成28年5月2日現在)